特集

語り継ぐ―

このまちに残る伝説や昔話―。
それは、人々が生きてきた中に生まれ、
人から人へと、語り継がれてきた。
「伝え残す」こと、そしてその先にあるものを考えてみたい―。

第1章 ミステリーへ、ようこそ―

神仏に加え、天狗も駆ける島、宮島―。
弥山には、古くから伝えられる
天狗の伝説があり、
弥山、そして宮島の
両七不思議にも数えられている―。

拍子木の音―

カチーン、カチーン。
人気のない深夜2時頃、
どこからともなく拍子木の音が聞こえてくる。
弥山に棲む天狗の仕業と語り継がれ、
音が鳴っている間は、
家にこもっていないとたたりがあると恐れられている。

弥山の松明―

弥山の頂上を中心に、灯が揺れて見えるという。
それは、人が持つ松明より大きくて赤く、
松林の中を飛び交うため、天狗の仕業とも言われている。

天狗の足跡―

弥山に棲む山伏姿の烏天狗は、
毎朝、厳島神社にお参りしているという。
夜の明けきらない朝4時頃、
羽を大きく広げ、弥山から神社に飛び降りてくる。
姿は決して見えないが、雪の降る日には、
神社の屋根に烏天狗の足跡が残されているという―。

天狗が浮かぶ岩

弥山の不消霊火堂（きえずのれいかどう）は、平成17年5月に火事で焼失した。そのとき、建物の裏にある巨石に天狗の顔のような姿が浮き出た。写真は火事直後で、霊火堂再建前。天狗は横向きで左下をにらんでいるように見える。現在は、顔の形はうっすらとしている。

語り継がれる天狗伝説

宮島には、古来より神秘的な伝説が、数多く言い伝えられている。その一つが、弥山に棲むといわれる「天狗」の伝説だ。

「七不思議」以外にも、天狗にまつわる話が今も語り継がれている。

その一つが「あやかし」。「あやかし」とは「化かす」といった意味で、宮島では15時以降に山に登ると、烏天狗に化かされて山から出られなくなるという言い伝えだ。

宮島の歴史に詳しい舩附洋子さんは、「宮島の山は古来から、自然のまま現代に残されています。夕方近くになって山に登ろうとすると、帰りはすでに暗くなります。人々の安全を守るために、先人が生きてきた経験や知恵を天狗の伝説に例えて後世に伝えてきたのだと思います」

大聖院の入り口で参拝者を迎える烏天狗の石像。撮影協力・大聖院。

と説明する。

親しまれている天狗

また、三鬼堂の烏天狗は、地元では「三鬼さん」と親しまれ、舩附さんの著書「厳島新絵図」にもこんな話が残されている。

氷砂糖と金平糖、そして豆腐が大好きな三鬼さん。堂守りが、「今日は豆腐屋が休みで、豆腐を差し上げられない」と言ったところ、「大丈夫、わしの背中に乗れ」と、京都の南禅寺までひとっ飛びしたという。そして、三鬼さんは「その辺を見物して来い。夕方までには南禅寺に帰ってこいよ」と言い残した。

その堂守りは、京の町を見物中に、宮島へ売りにくるなじみの呉服屋にバッタリ出会う。天狗に連れてきてもらったと言うが、信じてもらえない。帰りも天狗に連れて帰ってもらうと話したところ、どっちが先に着くか宮島で会おうということになった。

その日の夜中には宮島へ戻った堂守り。三日後に着いた呉服屋は「これは参った」と言ったそうだ。

豆腐食べたさに堂守りを京都まで連れて行った天狗の愛嬌や、すぐに帰らず京都見物までさせる優しさなど、天狗に対する人々の親しみが感じられる。

舩附さんは、「宮島の人々にとって天狗は『怖いもの』ではなく、人々を守ってくれる『大事な存在』。今も暮らしの中で生きています」と強調する。

大聖院
西園（にしぞの） 航大（こうだい）さん

弥山頂上近くにある三鬼堂（三鬼権現堂）は、日本で唯一「鬼」を主神として祀っています。福徳、智恵、降伏の徳を備えた三鬼神は強大な神通力で民衆を救うとされ、商売繁盛、家内安全の神様でもあります。そして、弥山の守護神である三鬼神の使いが、強い神通力を持つといわれている烏天狗です。

弘法大師も修行したとされる弥山は、数多くの伝説を今に残しています。そういった伝説やお話は、先人から受け継いだ地域の大事な財産です。大切に伝え続けていきたいと思います。